

実施報告書

ママの
ユメ活

母であり、一人の女性である、
これからの自分自身について考える。



SUPPORT BOOK FOR MOTHER

文部科学省 令和元年度「ママのユメ活」実施報告書

事業代表者：一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
(愛称：大阪市男女いきいき財団)
〒543-0002 大阪市天王寺区上汐5-6-25
TEL.06-7656-9040

発行：令和2年3月

主催：(一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会
大阪市立大学
協力：大阪市
厚生労働省 大阪マザーズハローワーク

目次

事業について 1

本事業の特徴 2

ママのためのライフプランニング講座 . . . 3

子育てママの社会科見学 6

eラーニング 9

ライフプランニング小冊子 11

講師からのコメント 12

まとめ 13

事業について

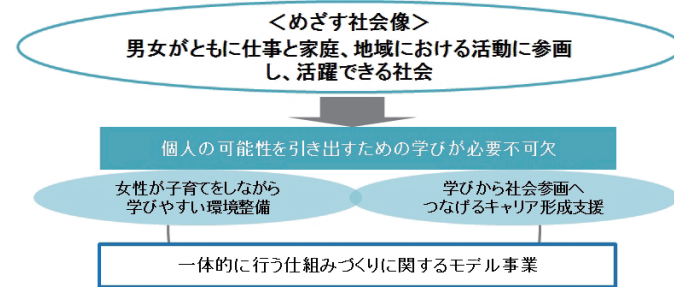
委託事業名

文部科学省 令和元年度 男女共同参画推進のための学び・キャリア形成支援事業
「対面・webでの学びのあり方検討」

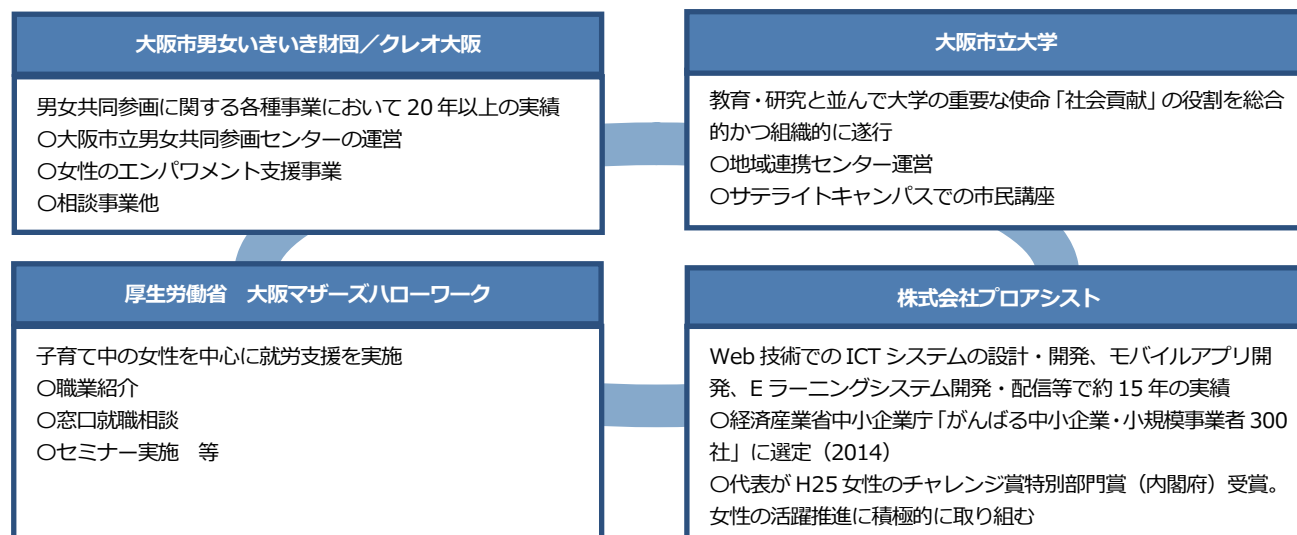
趣旨・目的

人生100年時代を迎えるなかで、男性も女性もともに仕事と家庭、地域における活動に参画し、活躍できるような社会の実現をめざすためには、個人の可能性を引き出すための学びが必要不可欠です。特に、女性の仕事キャリアやライフキャリアは、様々な大きな出来事（結婚、出産、子育て、介護等）の影響を受けやすく、その働き方・価値観・生き方は多様です。

本事業は、子育て中の女性を対象に、eラーニングを付加した学び/学び直しを通じて、女性自身がキャリアの多様さに気づき、自分の生き方・働き方を主体的に選択していく意識と行動を促す仕組みづくりを行うモデル事業です。



実施体制



本事業の特徴

コンセプト

スクーリング、現地見学、eラーニングの多様な学びの形態による学び/学び直しを通して、自らのキャリアをデザインする意識と行動を促す仕組みづくり

内容

学びの入口への誘導	対象 幼稚園、小学2,3年生の保護者 子育て関連事業参加者	■約10,000人にライフプランニング小冊子を直接配布。 ・幼稚園・小学校から(最大約7,000人) ※ ・クレオ大阪(大阪市立男女共同参画センター)、大阪YWCA(約3,000人)
ライフプランニング支援	対象 子育て中の女性	■ライフプランニング講座の実施(全1回×3会場) ■子育てママの社会科見学(全1回×1会場) ■eラーニングの実施(10月~2月)
フォローアップの実施	対象 事業参加者	■情報提供(関連テーマの支援機関、事業情報など)
課題・成果の共有	対象 関係機関等	■モニター会の実施 ■報告書作成

学びの形態

スクーリング(面接事業)	ママのためのライフプランニング講座
現地見学(実地授業)	子育てママの社会科見学
eラーニング	ママのユメ活 eラーニング

ママのためのライフプランニング講座

講師：小田 幸子さん（社労士法人ティムス共同代表/キャリアコンサルタント、社会保険労務士）
日程：11月29日（金）、12月7日（土）、12月12日（木） いずれか1日の10時30分～12時
会場：クレオ大阪東、クレオ大阪子育て館、クレオ大阪中央
備考：一時保育を実施（無料、3か月～就学前）

導入

- 講師の自己紹介
- 参加者の自己紹介
受講動機、子どもの年齢、講座で聞きたいこと など

STEP1：ライフプランニングとは

- ライフプランニング=充実した人生を送るための計画
- 計画に必要なもの=目標、ユメ、希望、理想、価値観…など
- ライフプランニングで考える項目
①家族/家庭 ②お金 ③キャリア ④その他（健康、自己研鑽など）

STEP2：家族/家庭のイベントを見通す

- 家族/家庭のイベント
家族の年齢や状況から今後起こることを見通してみる。
①子どもに関すること…保活、入園、卒園、入学、卒業、受験、進路、就職
②自身に関すること…就業、転職、転勤、定年、2人目以降の出産、育休復帰、小1の壁
③親に関すること…親の介護
④家族に関すること…住宅の購入、リフォーム

STEP3：お金の面から

- 子どもが成人するまでに必要なお金はいくら？
保育費、学費、習い事、塾、食費、生活費、保険 など
- 年金ってもらえる？生命保険はいくら必要？
ライフプランシートで、いつお金が必要か想像（シミュレーション）してみよう

STEP4：キャリアの面から

- キャリアとは…轍（わだち）=過去の自分
- 仕事だけでなく、趣味、ボランティア、地域活動なども自身のキャリアである
- モチベーション曲線を描いてみる
自分がいつ、どんなことをしている時期にモチベーションが高かったか振り返ってみる
- 偶然的積み重なりでキャリアはできている
- キャリアプランを考えたときのポイント
①過去と他人は変えられない。自分が行動しても変わらないことについては考えない
②未来と自分は変えられる。自分が行動して変わることができることを考える。
③できない、叶わない、マイナスのイメージは捨てる
④「いいかげん」=「いい加減」

まとめ

<実施のポイント>

- ・大阪市内でも子育て層の居住者が多い3区にある会場を設定した。
- ・子育て中の働く女性の先輩という立場からアドバイスでき、参加者のやる気を引き出しながら講義できる講師を選定した。
- ・毎回の講座後に講師と進め方の振り返りを行い、内容を精査していった。

<申込参加状況>

申込者数：23名、参加者数：19名



<アンケートの結果（無記入を除く）>

内容の満足度 ⇒ 94%
交流できた ⇒ 100%
ライフプランを考える上で役に立った ⇒ 100%
行動のきっかけになった ⇒ 100%

- ・自分の将来について考えられない状況だったので、子どもを預けて久しぶりに自分だけのことについて考える時間がもてて良かった。
- ・自分一人でもんもんと色々考えるより、こういったセミナーに参加して講師の方の話を聞いてモチベーションアップしました。
- ・先生が明るくてとても楽しい講座でした。3年後、10年後の目標が達成できるように頑張りたいです。
- ・「楽しい想像をして、今後のことを整理する」「自分でどうにかできないことは考えない」と言ってもらえて何となく安心しました。
- ・「今まで携ったことは全てキャリアになる」ということに気がつきました。
- ・自己理解、棚卸しをして次につなげることを考える、きっかけになりました。
- ・自分自身をみつめるきっかけになった。書いて見える化すると、数年後のことがリアルになってよかった

子育てママの社会科見学@ぐうぐう

日程：2月19日（木）10時～12時

見学先：中津つどいの広場「ぐうぐう」（運営者：（一社）あおぞら湯）

ファシリテーター：増田裕子さん

話題提供者：笠井あゆみさん（（一社）あおぞら湯代表理事）

備考：同室にて見守り保育を実施

<成果・所感>

●「ライフプランニング」+「楽しさ」でモチベーションを向上

「キャリア」というと仕事キャリアを思いがちであるが、そうではなく、今まで歩んできた足跡すべてがキャリアであるという視点から講座を実施した。受講者はその気づきにより、仕事だけでなく、自身の今後についてより広い活動のイメージを持つことができたようであった。

本講座ではライフプランを立てる上の考え方や項目の説明をしながら、ワークシートを多数用いて実際に自分の家族/家庭の状況でそれぞれのプランを考えていただいた。集中して考え、書く作業をすることで、見える化されたことにより数年後がリアルに考えられるようになった。

また、「ライフプランニングは楽しく考えるもの」という講師からのメッセージにより、感想には「前向き」「頑張る」「目標を立てる」「モチベーションアップ」などの言葉が見られ、受講者が自身の今後について楽しく前向きに考えていこうとする姿がうかがえた。

●子育て中の女性が自分のことを考える時間の提供ときっかけの確保

本講座では、一時保育を無料で利用できることとし、自分の今後について考える時間を確保していただいた。「子どもを預けて久しぶりに自分だけのことについて考える時間がもてよかった」という感想があるとおり、日常生活では自分の時間の確保すら難しい。また、講座中の様子からは、具体的な不安から漫然とした不安まで、今後についてさまざまな不安を感じている姿がうかがえた。本講座はライフプランニングの考え方や項目などを具体的に提示し、ワークシートに落とし込む作業をしたこともあり、「考えるきっかけになった」「何となく安心した」「家族と話してみようと思う」など、前向きになった感想が多かった。

●同じような状況の人との交流による学び合い

本講座では、講師が一方向的に講義を行うのではなく、子育て中の女性同士の交流も重視して行った。個人事業主、育休中の方、転勤族の方、そろそろ働こうと思っている方など、多様な方に参加いただき、感想からは「勉強になった」「色々な人の話を聞いて力をもらえた気がする」など、エンパワーされた様子が見られた。

「自分が悩んでいることを、他の人は悩んでいないことがおもしろい」とは、ある参加者の言葉であるが、同じ状況でもそれに対する価値観や考えはそれぞれ異なる。交流によりそれぞれの経験を共有することで、自分以外の視点も手に入れることができたり、自分はまだ経験していないが今後起こりえることへの対処法の知恵になったりする。相互のプラスの刺激をもたらすだけでなく、自分の価値観や考えを内省的に見つめ直すことにもなり、学習をさらに深めることにつながることができた。

STEP1：自己紹介タイム

●自己紹介ワーク

参加者一人ひとりからの自己紹介と参加の動機を聞きながら、参加者同士が交流しやすい和やかな雰囲気をつくる

STEP2：話題提供（一社）あおぞら湯代表理事 笠井あゆみさん

●子育てと活動の変化

個人として、仕事支援者サークル活動の立ち上げや既存の地域活動との連携、ぐうぐうの運営に至るまでの背景と経過

●勤めることと事業を起こしたこと

子どもの障がい、夫の仕事、妊娠&出産、体力、職場との折り合い、制度の狭間、自分の使命、タイミング、仲間、夫の理解、ワーク・ライフ・バランスなどの要因
仕事としての経済面での収支と自己実現を志向するパッションとのバランス
「もやもや感」

●地域で働くって？

行政からの委託事業や地域でのボランティアを通して、地域で働きながら活動する地域住民や我が子から受け入れられたり、認められたりしながら活動を継続

STEP3：中津つどいの広場「ぐうぐう」の見学

●大阪市の「つどいの広場事業」を受託し、中津つどいの広場を運営

乳幼児を持つ親とその子どもを対象に親子の遊び場及び相談できる場を提供
子育ての先輩であるスタッフが常駐しており、子育てへの負担感や不安感を軽減し、安心して子育てができる環境づくりを行う

●地域の情報の提供

区役所などの地域の子育て情報を壁に掲示し、さまざまな社会資源とつながる情報提供を行う

STEP4：交流会とまとめ

●グループ交流 共有と共感

子育てママがいろいろな役割を果たしながら自分らしく生きることについて意見交換

●まとめ

子育て、妻、嫁、娘、仕事、その他などいろいろな役割を自ら設定してバランスを保とうとして
もやもやを感じることもある

必要に応じて、外部からの応援を求めることも重要である

まとめ

<実施のポイント>

- ・子どもと一緒に参加しても、安心して話せる場の設定した。
- ・話題提供者は身近なロールモデルとなる方を選定。ファシリテーターを別の方をお願いすることで、俯瞰的な視点からナビゲートした。
- ・既存の関連テーマの機関の支援メニューとつながるきっかけづくりを意識した。

<申込参加状況>

申込者数：28名、参加者数：24名（女性14名、子ども10名）



<アンケートの結果（無記入を除く）>

内容の満足度 ⇒ 100%
交流できた ⇒ 100%
今後を考える上で役立つ ⇒ 100%
行動のきっかけになった ⇒ 100%

- ・日々子育てに追われて、子どもが大きくなった時、自分自身また迷いながら目標をみつめていきたいと思いました。今日刺激をうけました。
- ・同じような気持ちを、共感できて良かった。
- ・自分の今を見つめなおすきっかけや答えをいただきました。気持ちの持ち方、視野が広がりました。
- ・沢山お話が聞いて、今後の自分自身に役立てていけたらと思います。
- ・代表の在り方、参考にさせていただきました。

<成果・所感>

●アウトリーチ形式の事業企画

会議室などに講師を招請して講義などを行う形式ではなく、講師が活動している現場に出向き、見学したり交流したりするアウトリーチ形式をとった。実際に現場を見ることで、講師だけでなく、活動の雰囲気や周りのスタッフなども同時に見て、聞いて、学ぶことができた。活動の温度感も含めて体感することで、講師だけでなく現場の熱意を感じることができた。その結果、ほとんどの人からアンケートに「行動を起こすきっかけになった」という回答を得ることができた。

また、アウトリーチ形式の場合の学習環境の設定も重要であるが、保育の見守りスタッフを配置することで安心して参加できるように配慮した。母親から離れたい子はすぐそばで過ごしていたが、今回は交流を重視している企画であったこともあり、参加者同士が子どもをあやしたりする雰囲気もよく進めることができた。子どもが同室にいることでざわざわとするものの、静まり返らないためにかえって参加者同士でも話しやすかったという声もあった。

●交流から生まれる意識・行動の変容

講座始めに自己紹介を行ったことで、受講者同士が打ち解け、雰囲気よく進行することができた。「たくさんの方々の話が聞いて、勉強になった」という声があるとおり、受講者は、講師からの話題提供や見学はもちろん、受講者同士の交流からも学びを得た様子であった。他者と交流するなかで、体験を共有したり、共感とともに話をしたりすることにより、精神的な安心や安定を得ることが、自分の今後へ意識を向け、行動を促すきっかけとなったと考えている。

特に子育て中の女性は、子育ての多くを担っており、いわゆるワンオペで日々の生活を送っている人も少なくない。その負担感を軽減するためにも、共有・共感を得ながら、安心して過ごすことができる場が重要である。

また、今回は事業後に昼食をとりながらフォローアップ交流会を行った。何か始めたいがなかなか行動を起こせないといった悩みや自身の取り組む活動の悩みなども話された。前述のような事業の後ということもあり、初対面で出会った人同士にも関わらず、ママ友や遊びの場で出会った人との会話とはまた異なる深い交流が広がっていた。

●支援団体のネットワーク構築

大阪は年代別の就業率で見ると、全国と比較して、子育て世代のM字カーブの谷が深く、その後の回復も鈍い。子育て中の女性の就労を含めた社会参画という課題に、多様な主体とともに連携して取り組んだ。本事業のなかで、働く、両立する、学ぶといった行動につなげるサポート事業や団体の紹介を行ったり、受講後の懇談にて一歩踏み出そうとしている方に具体的なサポート機関や支援情報をお伝えしたりしたことで、その後のサポートにつながった方もみられる。一人ひとりが見守られ、応援される場は重要であり、その支援ネットワークの構築は重要な取り組みである。本事業でも多様な主体がその重要性を共有しながら実施することができた。

ママのユメ活eラーニング

講師：海野亜紀さん（大阪マザーズハローワーク）
提供期間：10月24日～2月29日（129日間）

STEP1：就職活動とは

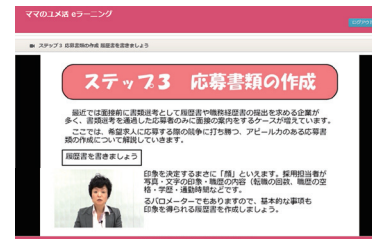
- ・就職活動全体の流れをつかむ
- ・自己理解・自己分析、キャリアプランを立てる
- ・社会人基礎力をチェック

STEP2：応募先の選定

- ・求人情報の収集方法
- ・求人票の見方ポイントの整理
- ・希望条件との適合性の確認

STEP3：応募書類の作成

- ・履歴書を書きましょう
- ・職務系録書を書きましょう
- ・応募書類に関するQ&A
- ・添え状を書きましょう
- ・書類を送付しましょう



STEP4：面接時のポイント

- ・事前準備
- ・面接時の身だしなみ
- ・面接当日
- ・言葉づかい
- ・面接での質疑応答
- ・面接後の振り返りとお礼状



全19コマの3分～7分程度のコンテンツに分けて実施 ダウンロード可能なワークシート

- ・価値観チェックリスト
- ・優先順位
- ・希望条件チェックリスト
- ・キャリアたな卸しシート（ほか）

まとめ

<申込参加状況>

登録者数：40名 のべ閲覧者数：220名

<アンケートの結果（無記入を除く）>

内容の理解度 ⇒ 98.9%
内容の満足度 ⇒ 99.4%
関連施設に関心を持った、知りたいと思った ⇒ 98.9%



- ・キャリアの棚卸しは再就職の際に必要なので、どのように進めていけばよいかのわかりやすかった。
- ・ポイントを細かく知れて役に立った。
- ・キャリアの読み替え、職業能力の点検に納得した。
- ・社会人基礎力という言葉が初めて知った。納得の内容だった。
- ・志望動機欄に書くべき事が整理できた。
- ・（面接時のポイントは）よくある内容で、新しさがないように思う

<成果・所感>

●気軽にできるeラーニングでの学び

動画チャンネルの普及により、自宅で動画を楽しむ人は多い。今回は動画でのeラーニングを採用したことで、eラーニングをしたことがない方も気軽に取組んでいただくことができた。また、聞き逃したときでも繰り返し再生し、確認できるというこのメリットが挙げられた。

しかし、自分の好きな時にできるという利便性がある一方で、いつでもできるという安心感から、日常の家事・育児など、やらなければならないことを優先させてしまい、結果的に学習が進まなかったという声もみられた。

●eラーニングをきっかけとした行動変容

今回はeラーニングと同ページにて、何か行動を起こすときにサポートできる機関の情報を提供した。受講後のアンケートでは、ほとんどのの方が「関連機関について関心を持った、知りたいと思った」と回答しており、eラーニング後の行動につながり、多様な学習ニーズに応えたりすることができた。知ることが学習につながり、自身について考えることや他者とつながることでさらに学びを深め、実践していく学習の循環をつくるため、きっかけとなる情報提供は重要である。ただ、情報過多になったり、自分に合っていないと感じると、そもそも閲覧されにくいことから、情報提供の量と質のあり方や対象層にあったツールについて今後も検討していくことが必要である。

ライフプランニング小冊子「ママのユメ活」

コンセプト

これまでの自分や興味があること、やってみたいことを思い描くことで、「なりたい自分」を実現するために動き出すきっかけを提供する

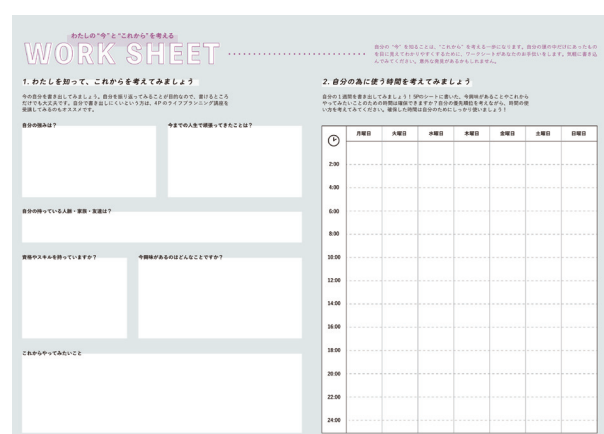
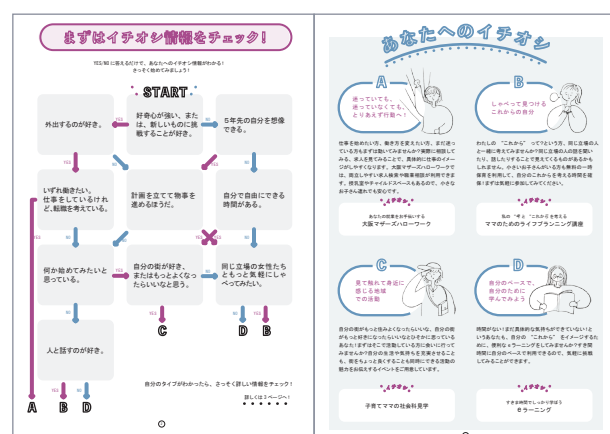
II

ユメを実現するための活動「ユメ活」



内容

Yes/Noチャートでタイプ別オススメの事業を紹介
わたしの“今”と“これから”を考えるワークシート
“これから”をサポートする公共施設や団体・機関の情報



広報

大阪市内で1万人に配布

- ・小学校2、3年生の保護者（北区、城東区、天王寺区）
- ・幼稚園の保護者
- ・クレオ大阪等の事業参加者

感想

- ・落ち着いた色調の冊子は派手な色目のチラシと比べると目立たないが、ワークシートに記入する際には落ち着いて取り組むことができた。
- ・雑誌のような表紙で、普段学校から配布されているものと違うのでページをめくってみた。
- ・ユメ活という言葉を見て、「ユメ」を持たないといけなのかという気持ちになった。
- ・Yes/Noチャート式は好きなので、自然に読み進めることができた。
- ・さまざまな機関・団体が利用できそうだとということがわかった。

講師からのコメント

ママのためのライフプランニング講座講師 小田幸子さん



ライフプランニング講座を担当させていただき、受講者の皆さんが子育てに悩みながらも、自分のキャリアや、家族の将来のこと、お金のこと、真剣に考える素晴らしい機会を得られていると思いました。妻として母として社会人として「どのように人生を選択していけばいいのか」現代の女性ならではのたくさん悩みがあるからこそ、このような講座に参加し、情報収集し、共に考えることで、女性活躍は自然と推進していく、そう確信しました。
「子育てが仕事の弊害」ではなく、「子育てが仕事のモチベーションや強み」と考えるワーキングママがどんどん増えるように、このような講座を是非継続して頂きたいと思います。

子育てママの社会科見学 ファシリテーター 増田裕子さん

今回参加された皆さんは、自分に近い世代の女性の起業現場を見たい。起業に至った経緯を聴きたい。同じ境遇のママたちと交流したい。などが参加の決め手になったようです。話題提供者の笠井さんの仕事、子育て、地域との関わりのワークバランスのお話を聴いて、現場を見学して、その後の共有タイムでは少し『もやもや』を吐き出して…。個々に近い未来をイメージすることができていれば何よりだと思えます。子育て中のママたちのもやもやはそれぞれです。目の前のすべきことで精いっぱい日々の暮らしの中ではなかなか見つけられない『もやもや』の解消の糸口が見つけられるような、講座をこれからも開催していただきたいと思います。



まとめ

本実証事業では、子育て中の女性が自身のキャリアの多様さに気づき、自分の生き方・働き方を主体的に選択していく意識を促すため、スクーリング（面接授業）である「ママのためのライフプランニング講座」、現地見学（実地授業）である「子育てママの社会科見学」、eラーニングを組み合わせる学び/学び直しの機会を提供した。

（1）多様なキャリアへの気づきを促す

社会が多様であるように、それぞれのキャリアもまた多様である。特に、女性は人生における大きな出来事（結婚、出産、子育て、介護等）の影響を受けやすく、また、固定的役割分担意識の影響も受けやすいため、より一層多様化する。本実証事業では、キャリアとは過去の自分であり、仕事だけでなく、家事・育児や趣味、ボランティアや地域活動など、これまで経験してきたものすべてが含まれるということを通理解として実施した。

ライフプランニング講座では、自身のキャリアを広く捉え直し、今後どのような価値観に基づいて人生を歩んでいきたいかをイメージするものとした。そのうえで、充実した人生を送るための計画としてさまざまなワークシートを用いながら、ライフプランニングへの取り組みを促した。ワークシートなどを活用し見える化したことにより、3年後、5年後を具体的に考えられるようになったという感想を得た。

講師には、子育て中でありキャリアチェンジで起業した女性を起用した。クレオ大阪のセミナーや一時保育を利用したこともあり、自身のキャリアや育児との両立の葛藤なども率直に語っていただくよう促した。保活や小1の壁など、少し前をいく子育ての先輩としてのアドバイスを交え、共感的に講座を進めることができた。また、講師から、子育ては仕事やその他の活動の弊害になると考えるのではなく、子育て

が「仕事のモチベーションや強みになる」と考えてみるよう提起された。このように考える女性が増え、また、男性や企業、社会全体もそのような価値観が共有されることで、女性の活躍やダイバーシティ&インクルージョンの取り組みを大きく進めることができる。

「子育てママの社会科見学」では、ロールモデルである話題提供者からの話やその後のワークにより、女性は就労のみならず、地域活動、子育て等の多様な役割を設定し、バランスを取りながら生活していることを参加者自身に認識していただいた。そして、その多様なキャリアは価値があるものであり、今後の行動につながるものであることを示唆することができた。

eラーニングでは、今後を考える際に役立てていただけるよう、キャリアの棚卸しを解説するコンテンツを提供した。ワークシートをダウンロードできるようにし、実際に書いてみるよう働きかけるプログラムで各自の取り組みを促した。

（2）漠然とした不安を解きほぐし、行動へつなげるきっかけ

事業を実施するなかで、女性がおかれている困難な状況や悩みが改めて共有された。例えば、

- ①パートナーが転勤族である女性は、いつ転勤になるかわからずキャリアが細切れになることで見通しが立たない悩み
- ②パートナーが転職を繰り返すために収入や勤務形態が定まらないことへの不安
- ③自身の仕事と家事・育児の両立や孤立した子育ての状況への不安
- ④育児中心の生活が長いため、本事業にて配布した冊子が手元に届くまで自分の将来については長らく考えていなかったことへの気づきなどである。それぞれが変動しやすさ、不確かさなど「もやもや」を抱えていることがうかがえた。

さまざまな不安が絡み合い、将来について漠然と不安を感じている方は多い。本事業では、講師の適切なファシリテートにより、その不安を解きほぐし、自身のキャリアの多様さを肯定的にそのまま捉え、まずは自分が変えられる範囲のことでどうするかを楽しく考えるように促し、自分のことをじっくり考える時間や場、考え方を提供できた

また、行動につなげる先の一つとして社会参画があるが、社会参画の多様さも提示した。今日、キャリアのパターンは多様化しており、同じ組織で継続就労型のほか、就職後に地域活動や学び直しに取り組むため離職し、その後再就職するパターン、また、就職後に出産・育児による中断を経て、その後学習をした上で再就職や地域活動に参加するパターン等さまざまである。また、就労に関しても雇用されて働くだけでなく、コミュニティビジネス、起業、スモールビジネス、小商売といった広がりも注目されている。

本事業では、参加者にキャリアと社会参画の両方のイメージを広げて捉えなおし、クロスするところがどこなのか、かつ、過去にモチベーション高く取り組んだことは何かを思い起こすことで、自分に合った社会参画のかたちをイメージすることにつなげた。その結果、参加者全員から「行動のきっかけになった」という回答を得ることができ、行動変容を促す機会とすることができた。



（3）学習環境を向上させる多様な学びの形態

モニターへのヒアリングにおいては、学びの形態によるメリット、デメリットが話された。学習の日時や場所が決まっている場合、出かけるのが大変な分それ相応の準備をして出るために学ぶ意欲が強まる、学習のメリハリをつけることができる、疑問があればその場で質問できる、他の参加者との交流ができるなどのメリットが挙げられた。

eラーニングは、好きな時間に繰り返し学ぶことができるメリットがあるものの、いつでもできるという安心感から家事・育児などの目の前のしなければならぬことを優先しがちで、ついつい後回しになってしまうということが複数の方から挙げられた。

また、学びを継続させていく際に必要なものとして、家族の理解と自分の中での優先順位が挙げられた。食事を作る、掃除するなどの家事や育児などの家族へのケアの時間を学びに充てるということについて、その日はケアが十分でなかったとして家族に罪悪感を感じたり、自身の成長のために学習することについて優先しにくかったりする現状がうかがえた。学びたいという気持ちを自分の多様な役割と照らし合わせて優先順位をつけ、その順位で行動した結果、自分の学びが後回しになりがちという現状がうかがえる。

それぞれの学びの形態のメリットを生かし、事前学習や準備をウェブで行い、スクーリングで学習した後に、再びウェブで相談などのフォローアップを受けることができるなどの組み合わせなどの組み合わせを予め組んでおくことも有効であると考えられる。

今回のライフプランニング講座を例に当てはめると、ワークシートやその記入の仕方は事前学習とし、講座当日までにある程度自分で準備しておく。講座当日には、わからなかった

ことや疑問点を講師に質問したり、感想や記入したことを参加者同士で共有したりすることに集中的に時間を使う。講座受講後には、面談やメール等で引き続き質問や相談を受け、フォローアップを行うという方法である。

また、現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、さまざまなイベントや講座等が中止・延期されている。リアルな場での学びも中止・延期されている中、ウェブを活用した学びはより重要性を増す。さまざまな工夫のもとに、今後も多様な学びの場や手法を検討していく必要がある。

(4) 交流から生まれる学び合い

「ライフプランニング講座」「子育てママの社会科見学」において、それぞれメインとなる学びを中心に据えつつ、講師やスタッフがエンパワメントの視点で適切にファシリテートし、交流・ネットワークの時間を必ず設けるようにした。受講動機を話すなかで、自身の悩みを共有する機会もあった。自分の不安なことを話すのは勇気もいることであるが、安心して話せる場の設定、講師のリードにより、さまざまな体験や悩みが共有された。共有することで「悩んでいるのは私一人ではない」という安心感を得たり、孤独感が和らいだりする。また、「私が悩んでいることを他の方は悩んでいない」すなわち、悩むポイントは各々で異なるということに気づき、状況が同じであったとしてもいろいろな見方があるということを改めて認識することで視野や考え方の幅を広げることができた。多様な考えに触れ、自他の違い、志向の違いを知ることで、相互にプラスの刺激をもたらすだけでなく、他者との違いから自身についてより深く考えることにもなった。

「子育てママの社会科見学」では、自身も子育て中ながら子育ての分野で活動している人も

参加され、講師も含めて、さまざまな社会活動のしかたが話された。活動的な事例を目の当たりにすることで、これまで自分と他の社会活動を重ねてみるのがなかった方も「自分も何かできるかも」という気持ちになったことがアンケートから見て取れた。



(5) 学びを支える連携とネットワーク

本事業のアンケートからは、多くの人から「何か行動を起こすきっかけになった」という回答があった。どんな行動であるかは人それぞれであるため、支援機関や事業情報などの提供を充実させるようこころがけた。クレオ大阪の相談事業を利用された方、セミナーに参加された方、大阪マザーズハローワークに行かれた方などもみられ、本事業にて通常届きにくい層に情報を届け、新たな行動につながる道筋をつくることができたことは成果である。

何か始めたいと思ったときの情報収集や相談の場や学習できる機会として、男女共同参画センターを核として活用することは大変有効である。情報提供事業や相談事業など、センターが通年で有するほかの機能と効果的に組み合わせることで、女性たちがいつきっかけをつかんでも、行動を促すサポートや学びの補完をすることができる。また、男女共同参画センターでは、女性の学び・キャリア形成支援にあたって

は、女性たちがおかれる社会状況の理解やエンパワメントの視点を前提としているため、一人ひとりの状況に沿ったより適切なサポートが可能である。

(6) 学びの入り口としての子育て支援拠点との協働

日常生活が子育て中心になっており、自身のキャリア形成や学びといったことに接点やきっかけを持ちにくい層、男女共同参画センター等の機関に足を運ばない層に対してこそ、人生100年時代の長い生涯のリスクヘッジの意味においても学びが不可欠と言える。男女共同参画センターや子育て支援の機関等は各々の設置目的に応じた施策・事業を展開している。そのニーズを有する利用者へのサービス提供という点では、十分と言える。しかし、前述の自身の

キャリア形成や学びといったことへの視点を持ち得ていない層やアクセスのきっかけがなかった層等の潜在的なニーズを有する層に向けての施策・事業には、十分注意を払う必要がある。

また、子育てママの社会科見学では、大阪府から「地域子育て支援拠点事業」を受託している（一社）あおぞら湯と連携して事業を行った。あおぞら湯は「中津つどいの広場“ぐうぐう”」を運営しており、地域で安心して子育てできる環境づくりを行うため、遊び場及び相談できる場の開放やイベント等を行っている。このような、一人ひとりの利用者と密接につながりながら運営している子育て支援団体との連携は、学びの場への入り口として非常に有効であり、重要な意味をもたらすものである。今後もさらに検討を重ね、学びの環境を整えていくことで「誰も取り残されない」社会づくりに向けて取り組んでいく必要がある。

